



ニチアスグループは、グループ内でのCSR活動だけでなく、お客さまにとって安全・安心で役に立つ製品・サービスを提供し、社会に貢献します。

管理本部長メッセージ

「働きやすく、働きがいがあり、働いていて良かったと思える環境を提供できている」これが中期経営計画における管理本部の目標です。

この目標を達成するためには、多様な働き方に向けた制度の充実、適材適所とモチベーションの向上、業務インフラの整備など、現状にとらわれない未来志向の「働きやすい環境」を整えます。

さらには、成長の実感できる整備された研修体系、意欲と実践をもって取り組むことで適正に評価される人事制度、DX推進による業務イノベーションなど、「働きがいのある環境」を提供することで、従業員に仕事を通じてさらなる成長と自己実現を果たしてもらうとともにエンゲージメントの向上を図ります。

これらにより、従業員の潜在力を掘り起こし、新たな価値を生み出す人的資本をさらに伸ばし高めていくことで「働いていて良かったと思える環境」をつくり続けます。



管理本部 本部長
馬立 浩徳

人的資本

当社グループでは人材を持続的な企業価値向上のための最大の資本と捉え、多様な人材が集い、安心して働き、一人ひとりが活躍できる社内環境の整備を推進しています。

人材の多様化については、正社員における女性比率を高めるべく採用目標を掲げるとともに、中長期的な視点も持って、管理職候補者の育成プログラムも検討を進めていきます。

また、働く環境の整備については、長時間労働の抑制や有給休暇の取得推進目標を掲げてワークライフバランスを推進していく一方で、従業員やその家族も対象とした健康づくりを推進し、心身ともに健康な状態を保つことで、一人ひとりの活躍をサポートしていきます。

人的資本の指標および目標

項目	2021年度	2022年度	2023年度	2026年度目標
正社員における女性比率	18.4%	18.7%	18.1%	25.0%以上
有給休暇取得率	65.3%	71.0%	78.3%	70.0%以上
1カ月の平均時間外労働時間	14.8時間	13.8時間	13.6時間	15.0時間以内

健康経営の推進

ニチアスグループ健康経営宣言

当社グループは従業員の健康と安全を企業活動の基盤と捉え、一人ひとりの心身が健康であるからこそ、イキイキと働ける明るい会社になると考えています。

こうした方針のもと、2021年4月に「ニチアスグループ健康経営宣言」を制定しました。職場の健康、からだの健康、こころの健康の3項目を重点施策と位置づけ、健康の「しくみ」づくりを実施し、従業員の健康管理に積極的に取り組んでいます。

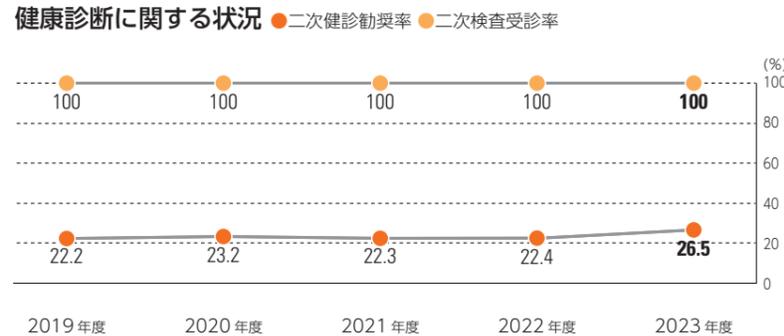
「健康経営優良法人2024(大規模法人部門)」の認定

当社は、経済産業省および日本健康会議が顕彰する「健康経営優良法人2024(大規模法人部門)」に認定されました。2022年から3年連続となります。
 今後も健康増進、健康リテラシー向上のしくみをつくり、従業員のパフォーマンス向上を図っていきます。



健康管理に関する状況

健康維持のために、定期健康診断などでは、再検査が必要な場合は、二次健診を勧奨しています。また、ニチアス健康保険組合とも連携しインフルエンザ予防接種の支援、運動イベント、健康診断時の各種オプション検査の受診補助を実施し、35歳以上の従業員には人間ドックの受診を奨励・支援しています。
 さらには、健康状態や生活習慣に対する会社全体での目標値を設定して健康管理に取り組んでいます。



メンタルヘルスケア

当社ではこころの健康にも重点をおき、精神科医と産業医契約を交わし、従業員を支援しています。不調者に対して、定期的な面談を実施し、復職後も継続して面談を行い支援しています。また、必要に応じてその上司の支援も行っています。
 さらには、新入社員や新任管理職などに対する社内研修では、必ずメンタルヘルス教育を設けており、ラインケアとセルフケア意識の向上にも取り組んでいます。
 ストレスチェックでは、50名未満の事業所も含め、当社グループ25社、およそ5,300名を対象に実施しました。また、集団分析も行い、より働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

従業員の健康リテラシーの向上

従業員一人ひとりの心身の健康を保つためには、従業員自身の健康に対する正しい知識習得が必要と考えています。グループ報「とんぼのわ」に産業医による従業員向けの健康啓発コラムを掲載して、健康リテラシーの向上に役立てています。

従業員の安全

安全衛生の取り組み

当社グループは、労働災害を防止するためにグループ一丸となって安全衛生活動に取り組んでいます。
 2023年度は設備の「不安全状態」に起因する災害から従業員を守ることに再度着目し、「不安全設備の撲滅活動」を展開しました。従来から行ってきた設備の各種安全対策で良しとせず、「今まで以上に本気で!」「設備で安全を確保する!」の2つをキーワードに設備の安全化に取り組ましました。「人の注意力に頼る」だけでは安全は確保できません。「人はミスをする」「横着する」などの考えのもと、設備で確実に安全を確保できるよう改善しています。
 2024年度は従業員の「不安全行動」に起因する災害を防ぐため、安全教育のしくみを再度検討し、従業員全員の危険感受性を高めることで、さらに安全に、さらに安心して働ける職場づくりを目指します。

安全衛生基本方針

トップの強いリーダーシップと全従業員の参画によって、積極的な安全衛生活動を推進し、「安全最優先」の意識の定着を図る

快適な職場環境を作り、一人ひとりの健康を確保する

2024年度 安全衛生スローガン

「職場のリスクは即改善 ルールを守って安全確保 ヨシ！」

ワークライフバランスの推進

有給休暇の取得状況

当社では、従業員が安心して働ける職場づくりの一環として、長時間労働の抑制を目的に総実労働時間管理をするとともに、年次有給休暇の取得目標を掲げ、積極的に取得を推進しています。従業員には、あらかじめ一年間の年次有給休暇の取得計画を立ててもらい、周囲ともその計画を共有することで、本人の取得意識の向上に加え、組織として年次有給休暇が取得しやすい雰囲気づくりに気を配っています。 ▶ P10参照

在宅勤務制度の導入

当社では、2023年6月よりリニューアルした在宅勤務制度の運用を開始しました。従前は、妊娠、育児、介護等のプライベートで負担がかかる状況にある従業員に限定した制度としていましたが、リニューアル後は対象者を限定しない柔軟な働き方の選択肢の一つとしての在宅勤務制度としています。今後は、在宅勤務を行う従業員の声も柔軟に取り入れながら、ワークライフバランスがさらに向上するような社内整備を進めていく予定です。

人権の尊重

人権の尊重

当社グループは、すべてのステークホルダーの人権を尊重すべく、「国際人権章典」、「労働における基本的原則および権利に関するILO宣言」、「ビジネスと人権に関する指導原則」などの国際的人権基準を参照し、「ニチアスグループ人権方針」を制定して普遍的な人権尊重を推進します。
 特に、①差別の排除(人種・年齢・性別・国籍・宗教等に基づく差別の排除とダイバーシティの推進、ハラスメントの撲滅)、②不当な労働の禁止(あらゆる地域における強制労働や児童労働の禁止、ワークライフバランスを重視した労務管理)、③安全衛生(安全・安心な製品提供や職場の安全衛生の維持向上、製造過程における環境への配慮)を、重要な人権課題と捉え、職場単位や各種研修等を通じた従業員への教育も実施することで、人権を尊重する考えを定着させる取り組みを継続していきます。

ダイバーシティへの取り組み

障がい者雇用の推進

当社では、全国の事業所において、障がいがある方の採用を行っています。特別支援学校からの実習生受け入れや、入社後のフォロー、支援団体とのコミュニケーションも取りながら、障がいがある方でも安心して長く勤めていただけるような取り組みを進め、東京の本社だけでなく、支社や支店、工場など、全国の事業所において、一般事務や庶務、軽作業など、さまざまな職場で活躍していただいています。なお、当社の障がい者雇用率は、2024年3月時点で2.4%となっています。 ▶ P10参照

人材の開発と育成

研修体制

当社では、「人」の能力を開発し、「組織」の力を高めることが、企業の持続的成長にとって非常に重要であるという考えに基づき、下表のとおり各種研修を行っています。階層別、目的別、本部連携という3つの種別からなる多種多様な研修を通じて、職場でのOJTだけではなく学ぶことが難しいとされる「ヒューマンスキル」や「コンセプチュアルスキル」の開発機会を提供し、新入社員から管理職まで幅広い等級や職種の新入社員の能力向上を図っています。

等級	種別		
	階層別	目的別	本部連携
管理職層	新任主管研修	新入社員上長研修	事業本部横断営業研修
		マネジャー強化研修	
中堅・チームリーダー層	主務3級 在任5年目研修 新任主務3級研修 新任主務2級研修	次世代リーダー育成研修	生産現場リーダー研修
		経験者採用フォローアップ研修	
		若手技術者集合研修	
新人・若手層	2年目社員研修 新入社員研修		

問題解決、課題達成に向けた人材の育成

当社グループでは、生産部門に限らずすべての職場で改善を文化として定着させ、従業員の働きがいと生産性向上の両立を目的とした、全グループで行う改善活動であるNKK(ニチアス改善活動)を2015年から進めています。

この活動では、「やってみよう!」「育む」「ありがとう」を三原則とし、従業員のより積極的な参加を促しています。継続的に実施することでNKKが当社グループの“文化”となり、当社グループの目指す姿である「働きやすい、明るい会社」の実現に貢献しています。

現在、NKKは国内外の737チーム、年間延べ約6,450名が参加する活動となっており、NKKを通じて、自ら問題を発見し、考え、問題解決できる人材の育成に大変役立っています。



NKKについて

NKKを通じた改善活動の成果は、年に1回開催する世界大会にて披露されます。2023年度の世界大会は約150人が来場し、4年ぶりに対面で開催することができました。行動制限が緩和されたことで、充実した活動になっていることが発表を通じて伝わってきました。

また、世界大会の最優秀チームである金賞受賞チームのメンバーをモデルとしたポスターを制作することで、活動推進の一助としています。



安全・安心な製品の提供

お客さまに信頼される品質への取り組み

お客さまに安心して安全にご使用いただける製品を継続的に提供するため、製品の企画・設計から廃棄にいたるまでの各ステージを審査する仕組みを設けています。

「開発」「設計」「技術」「製造」「販売」「品質保証」「環境」「安全」の各部門がそれぞれの専門的見地から連携し、製品の品質と安全性や信頼性、生産プロセスの妥当性を厳しく審査しています。

品質マネジメントシステム

当社グループは、128年の歴史の中で培った品質保証システムとISO9001を融合した品質マネジメントシステムを構築し、当社の幅広い事業と多様な製品群に対応した品質保証活動を推進しています。また、国内外の工場や子会社など多数の製造事業所でISO9001認証を取得しています。また、公的認定製品は専門の組織がその適合性を管理しています。

製品・サービスの安定供給

当社グループは幅広い産業になくはない製品・サービスを提供しています。

したがって製品・サービス供給が滞ることなく、継続的に事業活動を行っていくためのBCP対策は極めて重要な経営課題です。

災害発生時などで供給が途絶えた場合のお客さまへの影響度合い、市場での重要性、代替品への切り替えの可能性なども勘案し、製品・サービス供給の確保に努めています。また、事業活動を支える従業員の安全確保も重要な課題です。この2点をBCP対策の基本課題として、各種対策に取り組んでいます。

製品・サービス供給の確保

原材料調達については、毎年「CSR調達アンケート」という形でお取引先さまの活動状況の調査などを行い、そのなかで各サプライチェーンのBCP対策状況を把握し、必要に応じて改善を求めています。2023年度はBCP対策状況について問題のないことを確認しました。

従業員の安全確保

製品・サービスの安定供給のためには、事業活動を支える従業員の安全確保が大切です。従業員の安全を速やかに把握できるよう安否確認システムを導入しています。また、いざというときに確実に運用できるよう定期訓練を実施しています。

リスクマネジメント

当社グループは、多様化するリスクを最小化すべく、各分野のリスクに対して専門の部署を配置してリスク管理の充実・強化に取り組んでいます。

BCP対策

お客さまへの供給責任を果たすことを重要な企業評価基準と捉え、起こりうる大規模自然災害、感染症などが当社の生産へ与える影響を最小限にとどめるための対策の一つとして、生産設備や建屋、原材料などのさまざまなBCP対策を進めています。

情報セキュリティ

当社は情報セキュリティの取り組みとして、サイバー攻撃および情報資産漏洩の防止に向けて、情報セキュリティにかかわるリスクを明確化し継続的な対策に取り組んでいます。

基本的な考え方として、グループにおいて情報セキュリティのルールの順守を徹底し、ガバナンス体制を構築するとともに、さまざまな観点から複雑化・巧妙化する脅威の想定や、サイバー攻撃の動向把握により、外部からの脅威に対する備えの推進および改善や点検・監査に努めています。

知的財産戦略

研究開発で新たに創出した技術については、権利取得を積極的に推進しています。また、新製品発売時には他者の知的財産権を尊重し、権利侵害がないよう調査・確認を適宜実施し、適切な対応を行っています。

2023年度は、知的財産部署の新たに移行した部課体制のもと、技術系社員に対する階層別研修の実施、発明発掘活動のしくみづくり推進のほか、著作権の社内手引きを作成し、コンプライアンス強化にも努めるなど全方位的に事業強化を進めています。

企業価値向上に向けた取り組み

当社グループでは、株主のみならず利益を重視し、持続的な企業価値向上と利益還元を目指しています。これは、資本コストや株価を意識した経営に資するものと考えています。

中期経営計画で掲げる「収益性の向上」「事業の選択と集中」などのグループ課題を遂行することで、営業利益率、ROE、ROICの継続的な向上を図ってまいります。利益還元においてはDOE3.5%以上、累進配当を基本方針とし、資本効率を勘案しながら機動的な自己株式取得も検討してまいります。

ステークホルダーとのコミュニケーション

IR活動

当社グループでは、株主・投資家のみならずみなさまからのご意見を真摯に受け止め、経営に活かしていくことが重要との認識から、担当部署としてIRチームを設置し、株主・投資家のみならずに対し、フェアディスクロージャーの観点のもとコミュニケーションの充実に努めています。

アナリスト・機関投資家向け決算説明会や工場見学会、個人投資家向け会社説明会を開催しているほか、日常的なミーティングや証券会社主催のカンファレンスへの参加、海外の機関投資家訪問などを行っています。こうしたアナリスト・機関投資家との対話を通じて得られたご意見については、IR担当が定期的に経営会議などで報告し、経営・事業活動の改善に役立てています。引き続き、国内外の株主・投資家とのコミュニケーションを強化し、幅広い株主層の形成に努めていきます。



決算説明会の様子

2023年度のIR活動

アナリスト・機関投資家との適時・適切なコミュニケーションを図るため、期末決算および第2四半期決算の発表時にWEBによる決算説明会を開催しました。決算説明会では、経営方針、経営戦略、事業概要、財務情報を説明するとともに、経営幹部と投資家との対話にも積極的に取り組みました。

日常的には、対面ならびにWEB、電話会議システムを用いて、2023年度は延べ139件のIRミーティングを行いました。また、新型コロナウイルス感染症の収束にともない、工場・研究所見学会も再開しております。

今後も財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスなどの非財務情報に関する対話についても積極的に取り組んでまいります。



スモールミーティング



工場・研究所の見学会

各拠点での社会貢献活動

当社グループは世界各国に多数の生産・販売拠点を展開しています。各事業所では従業員や地域社会との調和を図りながら、ともに発展していけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

2023年度は78の事業所で合計487件の活動・取り組みが行われました。

営業所周辺の清掃を実施

各営業拠点(ニチアス)

各営業拠点では事務所周辺の清掃活動を定期的に行っています。今後も地域に根付いた活動を行ってまいります。



事務所周辺清掃活動(左:鹿島支店、右:四国営業所)

カブトムシ(成虫)の無償配布会を実施

株式会社APJ

APJでは有志の従業員が育成したカブトムシの成虫を従業員のお子さんやお孫さんに配布するイベントを開催しました。今回は自治会経由で地元の子どもにも希望者を募り、社外からも参加いただきました。



カブトムシ配布会

児童養護施設を訪問し、子どもたちのために運動会を開催

NICHIAS HAIPHONG CO., LTD.(ベトナム)

NICHIAS HAIPHONG CO., LTD.はハイフォン市内の児童養護施設を訪問し、子どもたちのために運動会を毎年開催しています。子どもたちの笑顔を見て、私たちも幸せな気分になります。手を振って別れを告げるたびに「来年も来てくださいね」という言葉が聞こえてくるのが嬉しいです。



運動会のようす

地元小学生を対象に見学会を開催

浜松研究所(ニチアス)

浜松研究所では、地元小学生の高学年12名を招待し、見学会を開催しました。見学会では無響室など普段では触れることのできない実験設備を体験し、興味津々のようでした。



企業見学会

国立公園の保護活動に参加

THAI NICHIAS INTERNATIONAL CO., LTD.(タイ)

THAI NICHIAS INTERNATIONAL CO., LTD.では従業員とその家族で、国立公園の保護動物への餌やりやフォレスト・シード・シューティング(森への樹木の種の植込み)を行いました。自然と触れ合いながら家族みんなで環境保護を考えるいい機会となりました。



餌やりのようす

農園の作成

THAI-NICHIAS ENGINEERING CO., LTD.(タイ)

THAI-NICHIAS ENGINEERING CO., LTD.所在地であるラヨン県の郊外にある小学校で実施したCSR活動の1コマです。社員が協力して土を掘り、苗を植え、小学校の昼食用の野菜を育てるための野菜園を作りました。この活動を通じて地元社会を支援し、子どもたちの栄養面向上および食糧持続可能性を高めたいという社員の願い・努力を反映しています。



農園の作成